

## 第3章 将来都市構造

### 1 都市構造とは

都市構造は、都市機能配置の概念を示すものであり、まちづくりの方針を実現するため、現在の土地利用や自然環境の骨格をベースに、将来像や主要なプロジェクトを考慮して設定します。

具体的には、都市の姿を踏まえ、「エリア」、「拠点」、「都市軸」の3つの要素について、区分や位置づけを設定しています。

#### ■ エリア

エリア名	凡例	内 容
住宅地区		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の買い物など住民のニーズを満足させるような生活環境が近隣で確保されている場。</li> <li>・身近で緑豊かな公園や水辺で、快適な生活環境空間が整った場。</li> <li>・防災・防犯対策、公営老朽住宅の更新などを進め、魅力ある住宅地の形成を図る。</li> </ul>
商業地区 (中心市街地)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地では、面整備による商業地の更新を進め、市内各所から人が集まる本市の商業・交流拠点を形成する。また、幹線道路沿道の商業地については交通量が多く、徒歩による買い物が危険なため、歩道等の整備により近隣住民が安心して買い物ができる商業空間の形成を図る。</li> </ul>
工業地区		<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業地区では、既存の工業機能の強化を図るとともに、周囲の良好な環境に配慮した産業拠点の形成を図る。</li> <li>・広域交通の利便性を活かし、積極的に企業誘致を進める。</li> </ul>
農業地区 (田園集落地)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・無秩序な開発や市街地外農地の宅地化を抑制することで、農業生産活動の場や良好な自然環境として保全を図る。</li> <li>・営農活動を行う田園集落地では、集落環境の保全を図るとともに、生活利便施設の整備などにより各地区のコミュニティの活力維持を図る。</li> </ul>
森林地区 (自然保全エリア)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の環境や風致を維持する重要な要素であるとともに、多様な生物が生息する貴重な自然環境であるため、良好な自然環境として保全を図るとともに、レクリエーションの場として活用を図る。</li> <li>・林業等の生産活動の場と位置づける。</li> </ul>
レクリエーション地区		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内市外問わず、多くの人が、歴史や自然、健康づくり、観光施設等を通じて交流を深めることのできる場づくりを推進する。</li> </ul>

## 序 章

はじめに

## 第1章

都市の現状と課題

## 第2章

まちづくりの理念と基本方針

## 第3章

将来都市構造

## 第4章

分野別まちづくり方針

## 第5章

地域別構想

## 第6章

まちづくりの実現化方策

## 参考資料

序章  
はじめに

第1章  
都市の現状と課題

第2章  
まちづくりの  
理念と基本方針

第3章  
将来都市構造

第4章  
分野別  
まちづくり方針

第5章  
地域別構想

第6章  
まちづくりの  
実現化方策

参考資料

■ 拠点

拠点名	凡例	内 容
定住促進拠点		生活に必要な施設の維持・集約による利便性の確保を図る。転入希望者を受け入れるための住宅地の整備を推進する。
賑わい・情報発信拠点		地域特性を踏まえた既存商店街の再構築、魅力的な街並み形成等による観光集客力の向上など、賑わいを創出する。
業務拠点		行政・業務サービス施設の維持・集積による業務機能の強化を図る。
産業拠点		流通面などにおいて、企業が立地しやすいメリットづくりをすすめ、新たな産業基盤の形成を誘導する。
小さな拠点		農業従事者や豊かな自然環境を求める移住者の生活利便性やコミュニティ形成を支援する。
歴史・文化・学習拠点		多久に伝わる歴史や文化を伝承する場として、また、東原庫舎を中心に地域資源を題材にした生涯学習を行う場として利活用を図る。

■ 都市軸

都市軸名	凡例	内 容
都市内連携軸		賑わい・情報発信拠点と小さな拠点の間を結ぶ軸
広域連携軸		他都市と広域的に結び、隣接都市との人やモノの交流や連携を図る軸
環境軸 (水と緑のネットワーク)		河川や緑地などの良好な自然環境・景観が連続する、都市と自然を結ぶ軸

序 章  
はじめに

第 1 章  
都市の現状と  
課題

第 2 章  
まちづくりの  
理念と基本方針

第 3 章  
将来都市構造

第 4 章  
分野別  
まちづくり方針

第 5 章  
地域別構想

第 6 章  
まちづくりの  
実現化方策

参考資料

## 2 将来都市構造

本市の将来都市構造を以下に示します。

### 2. 1 エリア

#### 〔住宅地区〕

- 北多久地域・東多久地域の既成市街地、多久地域・西多久地域・南多久地域の集落地を住宅地区とします。これらについては、それぞれの住宅地の特色を生かしつつ、防災・防犯対策、公営老朽住宅の更新などを進め、魅力ある住宅地の形成を図ります。
- 多久駅南部等の中心市街地の外周部と中央公園周辺、メイプルタウン、東多久町の東多久駅北部を専用住宅地として位置づけ、良好な居住環境の維持・向上を図ります。

#### 〔商業地区(中心市街地)〕

- JR多久駅周辺の中心商業地を商業地区と位置づけます。魅力ある商業地を形成するために、歩行者優先の空間づくりと、空き店舗活用など商業活性化のためのソフト施策を一体的に推進します。
- 多久駅南部と、東多久駅前の商業地を住商複合型の商業地区と位置づけます。交通量が多く徒歩による買い物が危険なため、近隣住民が安心できる商業空間を形成するために、歩道等の整備による安全な歩行者空間の確保を推進します。

#### 〔工業地〕

- 多久北部工業団地や東多久町の既存工業地域等を工業地区と位置づけ、周辺の生活環境や自然環境、防災等に配慮した土地利用を図るとともに、既存立地企業の支援の充実等に努め、雇用基盤の確保、産業の活性化の拠点としての機能向上を図ります。

#### 〔農業地区(田園集落地)〕

- 牛津川沿いに広がる農地と中山間部の棚田・果樹園地等を農業地区と位置づけ、優良農地の保全に努めます。まとまりのある優良農地については、経営規模の拡大と良好な営農環境をつくり、生産性の向上を図ります。
- 農地は、生産面のみならず、環境や景観の面においても地域資源としての価値を有することから、その価値の低下を招くような開発の抑制に努めます。
- 集落地では居住環境の維持・保全を図ることで、多久の原風景を残す空間づくりを図ります。

#### 〔森林地区(自然保全エリア)〕

- 本市の外周部に位置する山間部を森林地区と位置づけ、森林の資源環境や景観、野生動物の生態系の保全に努めることを基本としますが、適地には、林業振興や観光資源としての活用のための整備を推進します。

#### 〔レクリエーション地区〕

- 天山県立自然公園や中央公園、鬼の鼻山憩いの森などの公園や体育施設、ゴルフ場などの施設が立地している地域をレクリエーション地区と位置づけ、自然資源や健康増進施設を生かしたうらおいと癒しのあるレクリエーション空間や交流空間の形成を図ります。
- 天山多久温泉タクア、多久聖廟一帯等もレクリエーション地区とします。市内外の住民が歴史や自然、健康づくり等を通じて交流を深めることのできる場づくりを推進します。

## 2. 2 拠点

### 〔定住促進拠点〕

- 多久駅付近～東原庁舎中央校付近までの住宅地区、および、東原庁舎東部校、東原庁舎西溪校を中心とした一帯を定住促進拠点として位置づけ、定住促進を図ります。

### 〔賑わい・情報発信拠点〕

- ＪＲ多久駅周辺の中心商業地や、多久市まちづくり交流センター「あいぱれっと」等の施設を賑わい・情報発信拠点と位置づけます。都市機能の再編・強化や、交通結節機能の強化等の推進、周辺商店街と一体となった魅力ある利便性の高い複合機能型市街地拠点の形成を図ります。

### 〔業務拠点〕

- 市役所周辺における行政・業務サービス施設の維持・集積による業務機能の強化を図ります。

### 〔産業拠点〕

- 多久北部工業団地を産業拠点と位置づけ、長崎自動車道多久ICへの近接性を活かし、操業環境の維持・増進を進め、工業機能の強化を図ります。
- 現在、まとまった工業集積がみられるＪＲ東多久駅南側地区を産業拠点として位置づけ、機能の維持・強化を図ります。

### 〔小さな拠点〕

- 学校跡地、生涯学習拠点、スポーツ施設を地域の活動拠点として活用します。

### 〔歴史・文化・学習拠点〕

- 多久聖廟及び周辺を歴史・文化・学習拠点として位置づけます。多久に伝わる歴史や文化を伝承する場として、また、東原庁舎を中心に地域資源を題材にした生涯学習を行う場としての利活用を図ります。

## 2. 3 都市軸

### 〔都市内連携軸〕

○都市内の様々な拠点間を結ぶ軸を、都市内連携軸として配置します。

### 〔広域連携軸〕

○本市と周辺都市を結ぶ主な道路を広域連携軸として配置します。

○国道203号バイパスを、佐賀市・唐津市方面へ人やものが行き来するための大動脈として位置づけ、佐賀市・唐津市方面との連携強化を図ります。

### 〔環境軸(水と緑のネットワーク)〕

○本市を流れる牛津川は支川・源流が多くあり、農業・工業・日常生活を支える貴重な水資源となっています。また、これらの支川・源流は市内の山・集落・畑・田園・市街地を流れていることから、山間部と農村、農村と市街地を結ぶ環境軸として位置づけ、利活用を図ります。

## 序章

はじめに

## 第1章

都市の現状と課題

## 第2章

まちづくりの理念と基本方針

## 第3章

将来都市構造

## 第4章

分野別まちづくり方針

## 第5章

地域別構想

## 第6章

まちづくりの実現化方策

## 参考資料

# 将来都市構造図

## 序章 はじめに

## 第1章 都市の現状と課題

## 第2章 まちづくりの 理念と基本方針

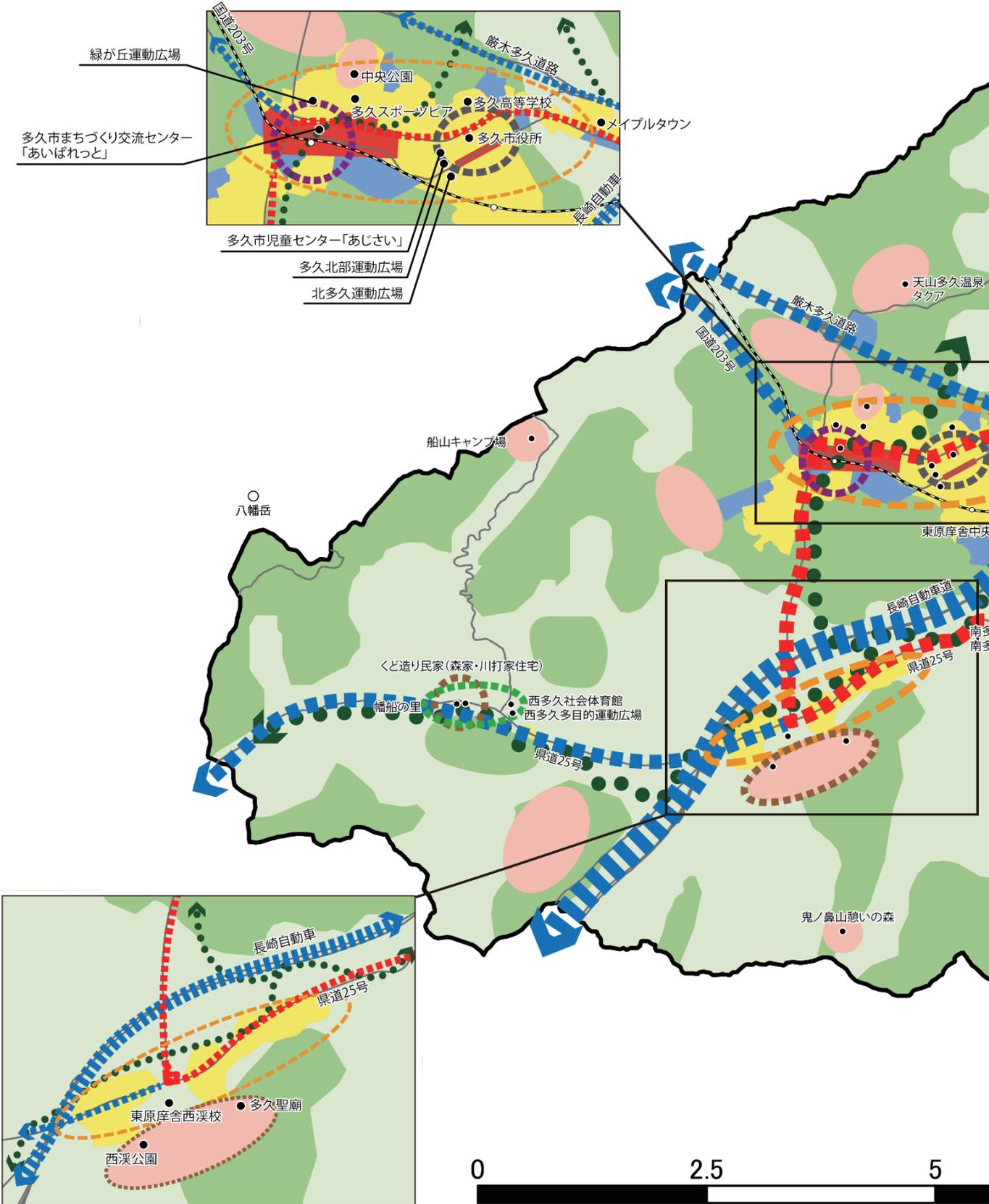
## 第3章 将来都市構造

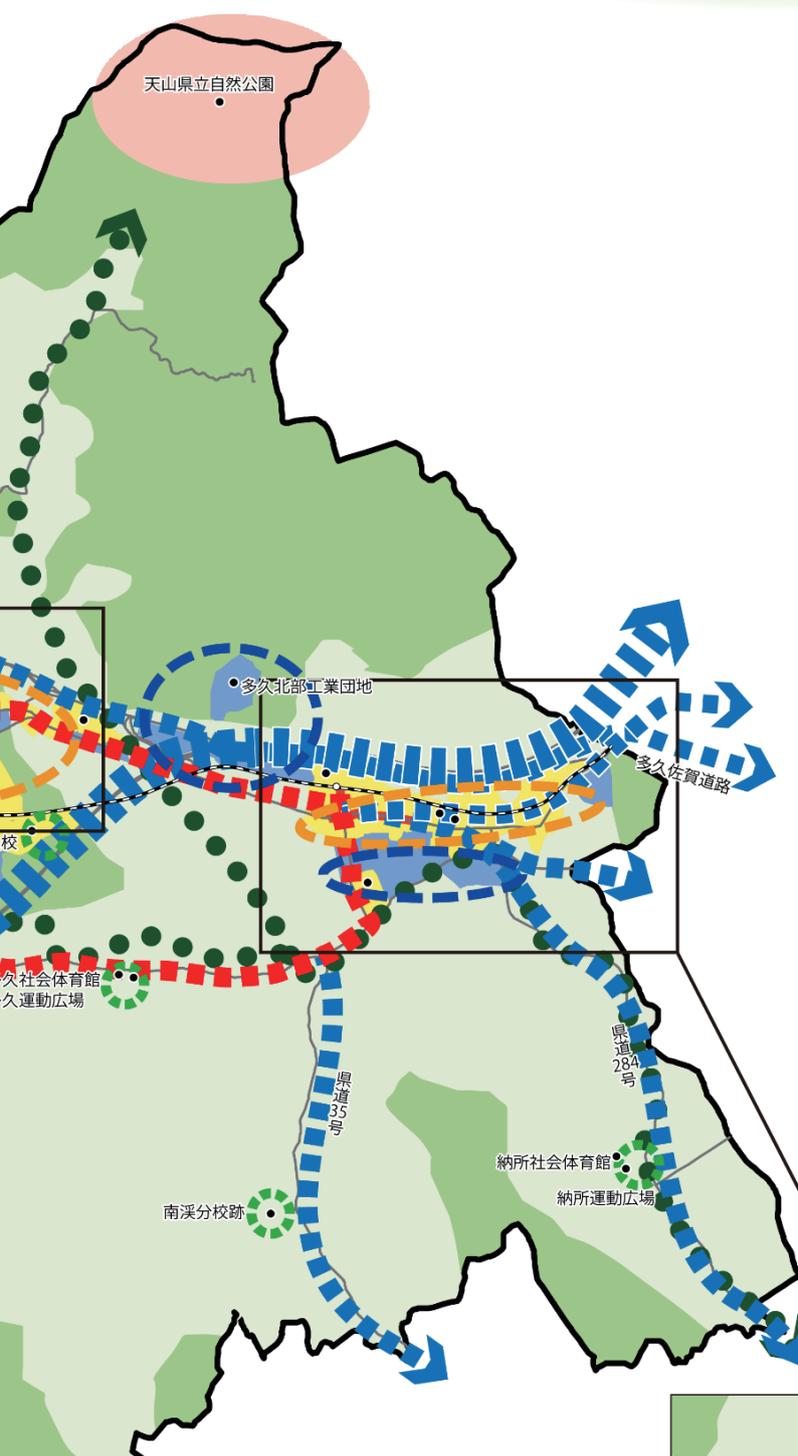
## 第4章 分野別 まちづくり方針

## 第5章 地域別構想

## 第6章 まちづくりの 実現化方策

## 参考資料

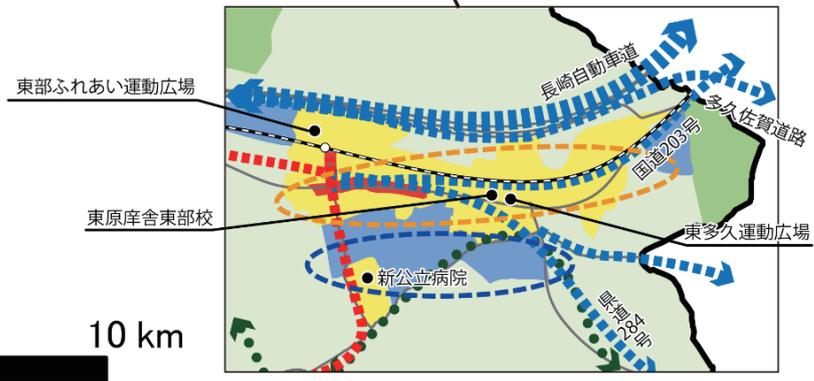




住宅地区	
商業地区 (中心市街地)	
工業地区	
農業地区 (田園集落地)	
森林地区 (自然保全エリア)	
レクリエーション地区	

定住促進拠点	
賑わい・情報発信拠点	
業務拠点	
産業拠点	
小さな拠点	
歴史・文化・学習拠点	

都市内連携軸	
広域連携軸	
環境軸 (水と緑のネットワーク)	



10 km

序章  
はじめに

第1章  
都市の現状と課題

第2章  
まちづくりの  
理念と基本方針

第3章  
将来都市構造

第4章  
分野別  
まちづくり方針

第5章  
地域別構想

第6章  
まちづくりの  
実現化方策

参考資料

